

案件概要書

2023 年 4 月 25 日

1. 基本情報

- (1) 国名：キルギス共和国（以下、「キルギス」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ビシュケク市、オシュ市及びイシククリ州
- (3) 案件名：国際空港管制施設整備計画（The project for Improvement of Air Traffic Control Facilities at International Airports）
- (4) 計画の要約：本計画は、老朽化したオシュ国際空港の管制施設の建て替え並びにオシュ、マナス及びイシククリの 3 つの国際空港の航空管制システムの更新を行うことにより、同空港を離発着する航空機運航の安全性及び航空機取扱能力の向上を図り、もってキルギスの航空セクターの機能強化を通じた運輸インフラ維持管理と地域間格差の是正に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

キルギスはアジアと欧州、ロシアと中東を結ぶ地政学的に重要な地域に位置し、非常に親日的であり、国際場裡や中央アジアを舞台とした日本との協力に前向きである。同国において、今後民主主義が定着し、国民が広くその果実を享受する社会を実現させるためには、経済的繁栄及び政治的安定が重要である。また、国際社会がアフガニスタンの自立と安定に向けて取り組む上で、キルギスを含む近隣諸国の安定と協力は不可欠である。我が国は、対中央アジア外交の基本方針として、中央アジア諸国の、開かれ、安定し、持続可能な発展を後押しし、地域協力の触媒としての役割を果たしていくことを表明している。昨年 12 月の「中央アジア＋日本」対話第 9 回外相会合の共同声明では、海への出口を模索する運輸・物流の各分野での協力が重要であることで一致しており、本計画はこれを具体的にフォローアップするものである。

ロシアによるウクライナ侵略の開始以後、ロシアは経済制裁に対する対抗策として、我が国を含む有志国に対してその領空を閉ざしている中で、ロシア領空を避けて中央アジア上空を通過してアジアや中東と行き来する便が急増しているところ、キルギスの国際空港の管制設備を整備することは、ロシアを経由しない航空路線の安全性の向上、中央アジア地域の運輸・物流環境の改善に寄与する他、インド太平洋地域との連結性強化の可能性も開き、キルギスの経済発展に資するものと言える。

- (2) 当該国における航空セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

国土の 40%以上が標高 3,000 メートルを超える山岳地帯で占められる内陸国キルギス（人口約 670 万人）にとって、航空輸送は社会経済活動を支える輸送手段として重要な役割を担っている。同国の旅客輸送量は、首都ビシュケクのマナス国際空港が約 6 割弱、同国南部に位置するオシュ国際空港が約 4 割弱、イシククリ国際空港が 1 割弱を占めており、この 3 国際空港でほぼ全キルギス空域のレーダー管制を

カバーしている（2021 年時点、民間航空庁）。

同国政府は、2015 年にオシュ国際空港の近代化計画を掲げ、2016 年には滑走路延伸、2017 年には旅客ターミナルビルの拡張工事を行った。一方で、同空港の管制塔や航空管制センターは、旧ソ連時代（1974 年）に建設されてから約 50 年が経過して老朽化したままである。そして、管制塔の高さが低いことから滑走路端部の航空機を視認することができず、航空機運航の安全確保が困難な状態となっている。

さらにオシュ、マナス及びイシククリの 3 国際空港の航空管制システム（レーダーデータ処理・表示システム、通信制御システム、飛行情報システム等はロシア製、一部ドイツ製）は導入から約 15 年を経過してメーカー保証期間を超過しており、早急にシステムの更新を要する状況にある。こうした状況を背景に、安全基準を満たす航空管制施設の整備及び 3 空港間での航空管制システムの更新が喫緊の課題となっている。

対キルギス国別援助方針（2012 年）の重点分野「運輸インフラ維持管理と地域間格差の是正」の中で、持続可能な発展を目指す上で、旧ソ連時代に整備された経済インフラの老朽化や都市と農村地域間の経済格差などの課題を克服することが重要である旨指摘されている。また、JICA 国別分析ペーパーでは、運輸交通インフラの大部分がソ連時代に建設されたもので老朽化が進んでいる旨指摘され、インフラの更新が喫緊の課題と分析されている。さらに、JICA グローバル・アジェンダ（課題別事業戦略）では、空港等のゲートウェイ整備を行い、開発途上国の持続可能な成長に資する「連結性向上」に取り組むことを掲げており、本計画は同方針・分析に合致している。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

【施設】オシュ国際空港：管制塔（地上約 40m）、航空交通管制センター（約 3,000 m²）【機材】オシュ、マナス及びイシククリ国際空港：航空管制システム（レーダーデータ処理・表示システム、通信制御システム、飛行情報システム等）

【コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネント】詳細設計、入札補助、施工監理、ソフトコンポーネントとして施設・機材の操作・維持管理に係る技術支援

② 期待される開発効果：オシュ国際空港において視認できる滑走路部分の比率が 84.4%から 100%に改善、航空管制システムの障害発生時の復旧時間が 1 日～数日から 1 時間に短縮されることにより、航空機運航の安全性向上が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：キルギス航空管制公社（Kyrgyz Air Navigation : KAN）、キルギス民間航空庁（Civil Aviation Agency : CAA）

④ 他機関との連携・役割分担：国際金融公社（IFC）は、マナス国際空港の運用改善のための支援を行っている。また、世界銀行及び英国民間航空庁は、キルギスの航空会社に対する EU 域内乗り入れ禁止措置を解除するための支援を行っている。マナス、オシュ及びイシククリの 3 つの国際空港を発着する航空機運航の

安全性が向上することにより、同禁止措置の解除に向けた支援を後押しすることになる。

- ⑤ 運営／維持管理体制：キルギス航空管制公社（Kyrgyz Air Navigation : KAN）が、民間航空庁の指導に基づき管制施設及び機器の運用や維持管理を行う。同公社はこれまで管制塔や航空管制センターや航空管制システムを長期にわたり適切に管理、運用してきており、国際民間航空機関（ICAO）を通じ人材育成も行っていることから、技術面や体制面での運営・維持管理体制に問題はない。財務面については、協力準備調査において確認する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
＜分類理由＞協力準備調査にて、ジェンダー主流化ニーズについて確認する予定のため。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

キルギス「マナス空港近代化計画」（円借款：事後評価 2003 年）評価結果では、空港会社が持続的・自立的に施設運用を行っていくためには組織運営面、人材・技術面、財務面での改善が必要である旨指摘があった。また、「マナス国際空港機材整備計画」（無償資金協力：事後評価 2022 年）では、マナス空港関係者が、本邦の集団研修に参加し、実際の空港機材運用を学ぶことができたと高く評価した旨指摘があった。本計画に係る協力準備調査においても、3 国際空港の運営体制、人材、技術、財政状況、維持管理予算に関する上記課題、また空港職員の能力開発の必要性について改めて確認する予定。

以 上

[別添資料] 地図

